

科目名	芸術研究学Ⅰ						
授業コード	3280	授業科目名	芸術研究学Ⅰ			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授、増田ひろみ講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

〔概要〕 芸術研究の前提となる「芸術」及び「作品」の概念とその成り立ちを理解し、造形を文化的・社会的な事象として研究するための視点を身につける。

〔目標〕 自身の鑑賞体験を、作品・鑑賞者・美術館の3要素を用いて説明できること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

〔レポート〕 美術館の空間や展覧会の構成と美術作品の鑑賞体験との関係について考察する課題。

○通信授業課題 2

〔レポート〕 美術館と博物館における作品・資料展示の特質について考察する課題。

【授業計画】

教科書により学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。

（主な内容）

近代「芸術」の終焉／「美しい芸術」と精神の美学／なにか「アート」か？／「作品である」ことの実質／作品の論理的見分／フィクションの快楽／歴史と物語／趣味と批評／キッチュと悪趣味／写真メディアー視覚の変容／ポップの美学／美的多元主義の時代

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1 年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備 考

芸術文化学科芸術研究コース 1 年次必修科目。

【教材等】

○教科書

西村清和『現代アートの哲学』（産業図書 1995年）

○学習指導書

学習指導書『芸術研究学Ⅰ 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

なし

科目名	芸術研究リサーチ						
授業コード	3290	授業科目名	芸術研究リサーチ			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

造形芸術の研究やライティングに必要な文献・Web情報の探索と活用の方法、現地調査や人物取材の手法などを学ぶ。情報収集能力の向上と、集めた情報を編集・加工して論文などの自己表現に活かせるようなスキルの獲得を目標とする。

【課題の概要】

○メディア授業課題1「文献目録の作成」
芸術文化に関するテーマを設定し、それに関する文献資料を様々な情報源を活用して収集し、書誌データを整理して文献目録を作成する。また、テーマ設定から目録完成に至るまでの行動プロセスと所感をレポートにまとめる。

○メディア授業課題2「年表（または年譜）の作成」
芸術文化に関するテーマを一つ設定し、それに関する主要事項を盛り込んだ年表（または年譜）を作成する。また、テーマ設定から表の完成に至るまでの行動プロセスと所感をレポートにまとめる。

【授業計画】

- 講義動画の構成
- 1章 芸術研究リサーチとは何か
- 2章 図書館を知る
- 3章 図書館での資料探索
- 4章 インターネットによる資料探索－1
- 5章 インターネットによる資料探索－2
- 6章 現地調査とインタビュー取材の方法
- 7章 情報活用のための整理と編集加工
- ・講義動画の終了時に「学習チェック」を受け、全問正解したあとにメディア授業課題に取り組む。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
- 1 年次～

- 履修条件
- 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
- インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。
- 具体的な必要要件は以下のとおり。
- ・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
- ・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
- ・作成データをPDFファイル形式に変換できること。
- ・PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

- 備 考
- 芸術文化学科芸術研究コース 1 年次必修科目。同コース 2 年次編入生は 2 年次に、 3 年次編入生は 3 年次に履修すること。
- 推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	芸術研究特殊講義 I						
授業コード	3300	授業科目名	芸術研究特殊講義 I			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

【概要】造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。
 【目標】造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題
 課題 パブリックアート：地元地域等の駅前、公園、街路、公共施設等に設置されている、絵画・彫刻等の作品の作者・作品名・作品形態・制作年・状態・経緯等を調査し、報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。

【授業計画】

- ・テーマに関する講義動画の視聴と学習チェック。
 - 1.パブリックアートとは何か。
 - 2.パブリックアートの現在
 - 3.パブリックアートの調査と報告
 - 4.パブリックアートを考える
- ・調査成果のWEBキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 1 年次～

○履修条件
 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
 インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。
 具体的な必要要件は以下のとおり。

- ・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
- ・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・編集・保存できること。
- ・写真の撮影と画像のWeb提出ができること。
- ・WordやExcelファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備 考
 推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	芸術研究学 II						
授業コード	3310	授業科目名	芸術研究学 II			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授、増田ひろみ講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

〔概要〕美術史学における作品研究の方法を参考として、造形作品が様々な要素によって構成された複雑な構造体であることを理解し、作品を資料としてその多様な意味を読み解くための基礎的な能力を養う。

〔目標〕造形作品の特徴を、物理的な側面と精神的な側面とに分けて説明できること。

【課題の概要】

課題1 〔レポート〕鑑賞した美術作品のスケッチとディスクリプションを行う課題。

課題2 〔レポート〕鑑賞した美術作品から作者の感覚や判断を推察する課題。

【授業計画】

教科書により学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。

（主な内容）

- ・西洋美術史入門（美術史へようこそ／絵を“読む”／社会と美術／美術の諸相／美術の歩み）
- ・西洋美術史入門〈実践編〉（ひとつの作品をじっくりと読んでみよう／美術作品の何を見るか-一次調査と「主題と社会」／さまざまな視点-美術品と社会の関わりをみる実践例から／まとめ-より深い鑑賞のために）

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書

池上英洋 著『ちくまプリマー新書 174 西洋美術史入門』（筑摩書房 2012年）

池上英洋 著『ちくまプリマー新書 212 西洋美術史入門〈実践編〉』（筑摩書房 2014年）

○学習指導書

『芸術研究学II 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	芸術研究コンセプト						
授業コード	3320	授業科目名	芸術研究コンセプト			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授、臼井新太郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

- 【概要】 ロジカル・シンキングやクリティカル・シンキング、様々な発想法など、芸術文化に関する研究・活動に向けて独自の観点を立てるための手法を学ぶ。
- 【目標】 芸術文化に関するテーマを発見し、解決に導く発想力や、観察と読解・分析力、論理的に筋道を立てて考える力を錬成することを目標とする。

【課題の概要】

- メディア授業課題1
一つの造形作品を取り上げ、その作品について書かれた紹介、解説文や批評などを2つ以上読み、相互の論点や論理の展開などを「比較検討」する。

- メディア授業課題2
自分の推薦する造形活動や作品を効果的に紹介・推進するための問題点を見出し、授業で解説されている発想法や思考ツールを使って改善や解決のアイデアを探る。

【授業計画】

- ・講義動画の視聴と学習チェック。
- 1章 芸術研究コンセプトとは何か
- 2章 課題発見から解決までの道筋
- 3章 考える技術～ロジカル・シンキング
- 4章 クリティカルに読み解く
- 5章 問題点を発見し、解決に導く発想の技術
- 6章 先行研究から学ぶ
- 7章 生活環境や場の観察を通した気づきの方法
- 8章 研究テーマの発見へ

【成績評価の方法】

- メディア授業課題（Webレポート）の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次：2年次～
- 履修条件： 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。
 - ・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
 - ・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
 - ・作成データをPDFファイル形式に変換できること。
 - ・PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

- 備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

- なし

【その他】

- なし

科目名	芸術研究特殊講義 II						
授業コード	3330	授業科目名	芸術研究特殊講義 II			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

- [概要]

造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。
- [目標]

造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

- メディア授業課題「郷土玩具の魅力と現代社会」

郷土玩具を見たり入手したりできる場所を探し、造形観察による特徴の把握と作品記録を行うとともに、郷土玩具名・産地・材料・寸法・発祥・用途・販売（頒布）地・製造法等を調査し、報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。さらに、調査した郷土玩具を題材としたレポートを作成する。

【授業計画】

- ・テーマと調査・報告の方法に関する講義動画の視聴と学習チェック。

1章 郷土玩具とは

2章 郷土玩具の現在

3章 郷土玩具の調査・記録と報告

4章 郷土玩具の魅力と社会との関わりを考える

・調査成果のWebキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

- メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次：2年次～
- 履修条件： 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。

具体的な必要要件は以下のとおり。

・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。

・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。

・写真の撮影と画像のWeb提出ができること。

・WordやExcelファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

- 備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

- なし

【その他】

- なし

科目名	芸術研究学Ⅲ						
授業コード	3340	授業科目名	芸術研究学Ⅲ			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

〔概要〕近代日本における美術史学の受容と成立の過程を中心に、美術史が歴史的・社会的に構成されてきた文化であることを理解し、造形を題材として文化を研究するための基礎的な能力を養う。

〔目標〕文献資料の内容構成を分析し、知識の取捨選択や配列、体系の特徴を説明できること。

【課題の概要】

課題1〔レポート〕美術通史の書籍内容を整理し、傾向や特徴を説明する課題。

課題2〔レポート〕範囲が共通する美術史の書籍を比較し、美術史の観点を説明する課題。

【授業計画】

教科書の一から三により学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。

（主な内容）

- ・一 国家・民族・宗教（歴史と文化の枠組/「美術史」の展示/「美術史」の歴史的アイデンティティー/「美術史」と宗教）
- ・二 歴史の上の「近現代」（歴史化の要件―「美術史」/日本の外国文化理解―孤立した「日本文明」/収集・コレクションとアイデンティティー/日本の日本文化理解）
- ・三 「現代」の上の「現在」（指向ベクトルの転換―大正・昭和戦前期/時代論理の転換―戦後「現代」/「美術」の社会構造/「近代日本美術史」）

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
3年次～
- 履修条件
芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

【教材等】

- 教科書
佐藤道信著『シリーズ近代美術のゆくえ 美術のアイデンティティー ―誰のために、何のために』（吉川弘文館 2007年）
- 学習指導書
学習指導書『芸術研究学Ⅲ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	芸術研究ライティング						
授業コード	3350	授業科目名	芸術研究ライティング			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授、臼井新太郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

【概要】 芸術文化に関する事柄を記述するうえで必要な文章の種類と基本ルールを理解し、様々なタイプのライティング方法を学ぶ。
 【目標】 芸術文化に関する事柄を自分の言葉で表現する力を身につけ、論理的で説得力のある文章能力を養うことを目標とする。

【課題の概要】

- メディア授業課題1
- 芸術文化に関して味わった感動や喜びの気持ちをテーマに、多くの他者に伝えることを念頭においた、随筆文を書く。
- メディア授業課題2
- 芸術文化に関する出版物を1点選び、その本の書評を書く。

【授業計画】

- ・講義動画の視聴と学習チェック。
- 1章 はじめに～芸術文化をめぐるさまざまな文章
- 2章 フリーライティングからはじめよう
- 3章 説得力のある文章の書き方
- 4章 読み手に伝わる文章の書き方
- 5章 エッセイを書く
- 6章 ディスクリプションを書く
- 7章 批評文を書く
- 8章 書評を書く

【成績評価の方法】

メディア授業課題（Webレポート）の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次：3年次～
- 履修条件： 芸術文化学科芸術研究 コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。
- ・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
 - ・Microsoft Word Ver.14（Word 2010） 文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010） ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
 - ・撮影した写真データをPDFファイル形式に変換できること。
 - ・PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	芸術研究特殊講義 III						
授業コード	3360	授業科目名	芸術研究特殊講義 III			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［オンデマンド］						

【授業の概要と目標】

- 【概要】造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。

【目標】造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題

芸術理論と美学のリアル：地元の市区町村立図書館を調査し、芸術理論・美学（日本十進分類法［NDC］701に該当）に配架されている図書のリストを作成し、情報源としての特徴や傾向を報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。

【授業計画】

- ・テーマに関する講義動画の視聴と学習チェック。

1. 美術の本が好きだから
2. 美術の本の傾向と対策
3. 本と図書館の美術論
4. 実践・中井正一著『美学入門』を読む

・調査成果のWebキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次：3年次～

○履修条件： 芸術文化学科芸術研究 コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。
・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
・WordやExcelファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	卒業研究 I						
授業コード	3370	授業科目名	卒業研究 I			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

- 【概要】 次年次の卒業研究に向け、研究テーマを検討し、完成までのスケジュール立案や研究に必要な基礎情報の収集をおこなう。
- 【目標】 研究計画書を整え、資料調査・分析を実現するための見通しが持てること。

【課題の概要】

- メディア授業課題
リアルタイム授業受講後に研究計画書を作成し、指定の期日までに提出する。

【授業計画】

- 受講前アンケートへの回答（ネットフォーラム掲出の事前資料を参照すること）。

- メディア授業
 - ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
 - ・授業の2日前までにWebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングルームURLを送付する。
 - ・開講予定については「面接授業［スクーリング］ 日程表 メディア授業［リアルタイム］ 日程表」を参照すること。
 - ・2日間全ての出席が必要

- （メディア授業の構成）
1日目 卒業研究の概要説明、質疑応答
2日目 受講者各自の研究構想の報告と意見交換

- 研究計画書の提出（専用URLにファイルをアップロードする）及び指導。

【成績評価の方法】

- メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次：3年次～

- 履修条件： 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。
 - ・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
 - ・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
 - ・作成データをPDFファイル形式に変換できること。
 - ・PDFファイルを専用URLにアップロードして提出できること。
 - ・Zoomミーティングに参加できること。

- 備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

- なし

【その他】

- なし

科目名	芸術研究学Ⅳ						
授業コード	3380	授業科目名	芸術研究学Ⅳ			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

〔概要〕
戦後の日本における美術の大衆化の過程を手がかりに、文化とメディアとの関係を理解し、造形を取り巻く社会現象を研究するための基礎的な能力を養う。

〔目標〕
メディアやジャーナリズムにおける美術の扱われ方を分析し、美術に対する社会の捉え方を説明できること。

【課題の概要】

- 通信授業課題1
〔レポート〕テレビの美術番組を視聴し、作品に関する情報が映像や音声においてどのように強調・省略されているかを説明する課題。
- 通信授業課題2
〔レポート〕アートに関する近年のニュースを取り上げ、報道内容から「アート」がどのような意味で用いられているかを説明する課題。

【授業計画】

教科書の二から六により修学し、課題に基づいて学修報告を提出する。

（主な内容）

- ・二 円本美術全集の刊行（刊行の商業性/国内社会への幅広い流通/`家庭美術館構想、/アカデミズムの参画/1960～2000年代の展開）
- ・三 ラジオの美術番組（初心者への発信/美術史への接触機会の提供/アカデミズムの参画/テレビの美術番組の放送開始/1960～2000年代の展開）
- ・四 サブカルチャーの美術史物語（ラジオドラマ・講談・児童書・大衆小説の美術史物語/美術作家の人生論/娯楽性/アカデミズムとの接続/1960～2000年代の展開）
- ・五 古美術観光の歩み（京都での整備-1920～40年代/京都と文化財保護法下での拡充-1950年代/アカデミズムの参画/観光というレジャーの娯楽性/1960～2000年代の展開）
- ・六 デパートの古美術展（1950年代の本格化/アカデミズムの参画/ショッピングの娯楽性/1960～2000年代の展開）

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
4年次
- 履修条件
芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

【教材等】

- 教科書
太田智己 著『シリーズ近代美術のゆくえ 社会とつながる美術史学 -近現代のアカデミズムとメディア・娯楽』（吉川弘文館 2015 年）
- 学習指導書
学習指導書『芸術研究学Ⅳ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	芸術研究特殊講義 IV						
授業コード	3390	授業科目名	芸術研究特殊講義 IV			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授、小池利佳講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

[概要]
 造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。
 [目標]
 造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題
 町・町並みの風景採集：講義動画を参考に町を歩き、自分が魅力的と感じる風景を調査・採集（観察記録）し、その特徴を報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。さらに調査した風景スポットをリスト化し、解釈・評価を行う。

【授業計画】

- ・テーマに関する講義動画の視聴と学習チェック。
- 1章 風景を見る目
- 2章 景観保全と景観形成
- 3章 風景の構成要素と町歩き事例
- 4章 町と町並みの風景採集と評価
 - ・調査成果のWebキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4年次～

○履修条件
 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
 インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。
 具体的な必須要件は以下のとおり。

- ・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
- ・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
- ・写真の撮影と画像のWeb提出ができること。
- ・WordやExcelファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考
 推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	卒業研究 II						
授業コード	3400	授業科目名	卒業研究 II			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

〔概要〕
研究の経過状況を点検して方向性を確認し、資料調査と分析に関する中間成果を報告すること。

〔目標〕
ここまでの資料調査の成果をまとめ、今後の研究の完成に向けた確実な見通しが持てること。

【課題の概要】

○メディア授業課題
リアルタイム授業受講後に調査報告書をまとめ、指定の期日までに提出する。

【授業計画】

○授業内発表の事前登録（ネットフォーラム掲出の事前資料を参照すること）。

○メディア授業

- ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
- ・授業の2日前までにWebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングルームURLを送付する。
- ・開講予定については「スクーリング・メディア授業日程表」を参照すること。
- ・2日間全ての出席が必要。

（メディア授業の構成）

1日目 研究活動についての説明、質疑応答

2日目 受講者各自の調査経過の発表と意見交換

○調査報告書の提出（専用URLにファイルをアップロードする）及び指導。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4年次

○履修条件
芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
「卒業研究I」の単位を修得していること。

インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。具体的な必須要件は以下のとおり。

- ・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0)を閲覧できること。
- ・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
- ・作成データをPDFファイル形式に変換できること。
- ・PDFファイルを専用URLにアップロードして提出できること。
- ・Zoomミーティングに参加できること。

○備考
推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

科目名	卒業研究Ⅲ						
授業コード	3410	授業科目名	卒業研究Ⅲ			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(M2)	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業［リアルタイム］						

【授業の概要と目標】

〔概要〕
 研究の成果をまとめ、展示・公開可能なかたちで提出する。
 〔目標〕
 研究の取り組み内容を反映し、計画時からの進展と反省点、今後に向けた課題を具体的に示されていること。

【課題の概要】

○メディア授業課題
 リアルタイム授業受講後に研究報告書をまとめ、指定の要領で提出する。

【授業計画】

○授業内発表の事前登録（ネットフォーラム掲出の事前資料を参照すること）。

○メディア授業

- ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
- ・授業の2日前までにWebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングルームURLを送付する。
- ・開講予定については「スクーリング・メディア授業日程表」を参照すること。
- ・2日間全ての出席が必要。

（メディア授業の構成）

1日目 研究報告書作成についての説明、質疑応答

2日目 受講者各自の研究経過の発表と意見交換

○研究報告書（査読稿）の提出（専用URLにファイルをアップロードする）及び指導。

○研究報告書（展示稿）の提出（「卒業制作・卒業研究」提出要領に従い郵送するとともに、専用URLにファイルをアップロードする）。研究報告書の提出には、当年度までの卒業制作提出条件審査の結果が合格であることが条件となる。

○講評（Zoomによる）

【成績評価の方法】

卒業研究（研究報告書）と提出後の講評との総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 4年次

○履修条件
 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
 「卒業研究Ⅰ」の単位を修得していること。
 「卒業研究Ⅱ」の単位を修得しているか同時に履修登録していること。
 メディア授業［リアルタイム］の受講にあたっては、「卒業研究Ⅱ」のメディア授業［リアルタイム］を受講済みで合格していること。
 インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。具体的な必須要件は以下のとおり。

- ・Adobe PDF 1.3ファイル（Acrobat 4.0）を閲覧できること。
- ・Microsoft Word Ver.14（Word 2010）文書またはMicrosoft Excel Ver.14（Excel 2010）ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
- ・作成データをPDFファイル形式に変換できること。
- ・PDFファイルを専用URLにアップロードして提出できること。
- ・Zoomミーティングに参加できること。

○備考
 推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

当年度までの卒業制作提出条件審査の結果が不合格の場合は、本科目の単位を修得することはできない。納入済みの受講料は返金や次年度への繰り越しの対象とならないことから、メディア授業〔リアルタイム〕の受講申込（受講料納入）にあたっては審査基準及び単位修得状況を十分確認すること。

科目名	ミュゼオロジー I						
授業コード	1370	授業科目名	ミュゼオロジー I			担当者	新見隆教授、 河原啓子講師、中島智講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科【学1課程】3年次必修科目【学2課程】3年次選択必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「ミュゼオロジー（博物館学）」の概念についての基本的理解を獲得し、世界と日本における博物館の成立から現在までの展開、現行の博物館法に基づく博物館の定義と分類、博物館と博覧会等との関係、博物館における資料の条件と区分法、資料の保存と公開との関係、現代のヨーロッパと日本における博物館の動向、博物館の施設と活動との関係などについての基礎的知識を、美術館の事例を中心として学修すること。

【課題の概要】

○面接授業課題
学芸員の業務や美術館活動の実際を、講義と見学、グループ議論等により指導。

○通信授業課題
教材による学習の後、博物館施設の事例調査に基づく研究を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

* 課題については学習指導書『ミュゼオロジー I 2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業
・コレクション形成と美術館の成立／美術館と展覧会／学芸員の業務／美術館評価／美術館の動向 等
・美術館見学／学芸員・職員による説明／施設、展示、来場者等に関する調査
・見学施設への美術館評価のグループ発表と講評指導

○通信授業
・（教材による学習）ミュゼオロジーの概念／ミュージアム体験の意味／博物館法／博物館の種類／ミュージアムの歴史／各国博物館の特徴と社会背景／設置形態と収集理念／ミュージアムの空間／キュレーターの視点 等
・（学修報告と添削指導）美術館の人・物・場の関係について事例調査に基づく研究

【成績評価の方法】

通信授業、面接授業評価の平均点とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3 年次～

○履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備 考
（学1課程）
芸術文化学科各コース 3 年次必修科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

○教科書

新見隆編『ミュゼオロジーへの招待』（武蔵野美術大学出版局 2015 年）

○学習指導書

『ミュゼオロジー I 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

日頃からできるだけさまざまなミュージアムに実際に足を運び、そこで何を見て、体験し、そして何を感じたかについて振り返りつつ、学習をすすめてほしい。

また、レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

面接授業ではグループワーク及び学外見学を予定。

科目名	メディア論						
授業コード	1390	授業科目名	メディア論			担当者	金子伸二教授、岡川純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3年次選択必修、【学1課程】文化支援コースは3年次必修）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

社会における情報・知識の拠点としての博物館の役割を理解するとともに、博物館活動においてメディアが果たしている教育・普及・研究面での機能を、メディアを活用した展示や資料解説、インターネットによる情報サービス、美術館における画像等のデータ活用などを題材に、メディア・リテラシーの視点から学ぶことで、メディアの形式と情報の意味との関係を把握し、情報発信の担い手としての知見と責任意識を獲得すること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1、2
教材による学習の後、博物館を見学調査する。博物館内での情報発信の取り組み、視聴覚メディアによる展示解説の調査報告をまとめる。博物館における情報やメディアの扱い、活用、その効果と可能性を考察する 2 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

* 課題については学習指導書『メディア論 2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
・（教材による学習）教育におけるメディア活用／視聴覚教育の源流と展開／視聴覚メディアの諸形態／メディアの概念と歴史／メディア「による」教育と、メディア「についての」教育／メディア・リテラシー教育の成立と展開／博物館におけるメッセージ伝達／メディアを活用した展示／教育の情報化／メディアに関わる諸権利等
・（学修報告と添削指導）博物館内における情報発信の取り組みについての調査／博物館展示における視聴覚メディアを用いた展示解説の調査

【成績評価の方法】

通信授業課題 1 と 2 を総合して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3 年次～

○履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備考
（学1課程）
芸術文化学科文化支援コース 3 年次必修科目。
芸術文化学科造形研究コース 3 年次選択必修科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

○教科書
佐賀啓男編著『改訂 視聴覚メディアと教育』（樹村房 2010 年）

○学習指導書
『メディア論 2024 年度』（武蔵野美術大学造形大学通信教育課程 2024 年）

【その他】

○参考文献

『メディア・リテラシー』（菅谷明子著 岩波書店 2000 年）ほか

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	生涯学習概論						
授業コード	1450	授業科目名	生涯学習概論			担当者	加藤幸治教授、紫牟田伸子講師、田中洋江講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3年次選択必修、【学1課程】文化支援コースは3年次必修）						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「自ら学ぶ」ことを中心テーマとし、誰もが・いつでも・どこでも学べる生涯学習社会の実現が提唱されて以来の教育施策の理念と具体的な歩みを把握したうえで、博物館と美術館を中心として、図書館や公民館などの社会教育機関が市民の学習活動に貢献するために必要な取り組みを理解し、生涯にわたって学習を継続するうえで求められる基本的態度を自らが獲得するとともに、他者の学習を支援することへの意識を高めることを目標とする。

【課題の概要】

○面接授業課題
博物館の生涯学習活用について講義と小課題等により指導。

○通信授業課題
教材による学習の後、社会教育施設の事例調査に基づく活動事業提案を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

＊課題については学習指導書『生涯学習概論 2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業
スクーリング受講前に教科書をよく読むこと。
・博物館資料から学びを構成する／情報を知識にするための場／教化装置としての博物館 等
・施設の運営と学習への対応／学習情報提供の観察
・発表と質疑応答／発表への講評とディスカッション

○通信授業
・（教材による学習）生涯学習実践者としての学芸員／生涯学習の基本／実物学習の価値／ラングランの理念／生涯学習行政の展開／生涯学習における指導者の役割／生涯学習の先達者たち／社会的条件と学びとの関係／社会教育における出会いと自己発見 等
・（学修報告と添削指導）社会教育施設の事例調査に基づく活動プログラム提案

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業との総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3 年次～

○履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備 考
スクーリング時に受講人数制限をする場合がある。
（学1課程）
芸術文化学科文化支援コース 3 年次必修科目。
芸術文化学科造形研究コース 3 年次選択必修科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

- 教科書
神野善治監修『ミュージアムと生涯学習』（武蔵野美術大学出版局 2008 年）
- 学習指導書
『生涯学習概論 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。
学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として扱われる。
面接授業では小課題の作成・提出・発表等を予定。

科目名	博物館資料保存論						
授業コード	2240	授業科目名	博物館資料保存論			担当者	金子伸二教授、成田朱美講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

博物館において資料を保存することの意義と保存の歴史、文化財保存の理念、保存を支える関係要素を理解したうえで、資料の材質・形状・状態に合わせた調査・保存・修理方法、資料の劣化因子と保存のための環境整備の重要性を認識し、あわせて展示・梱包・輸送など博物館活動に伴う資料の扱いと保存との関係などへの考察を通して、博物館における資料保存のための基礎的知識を、美術工芸、考古、民俗資料を中心として学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1、2
教材による学習の後、博物館における資料の保存と公開の取り組みに関する事例研究、資料の劣化につながる保存環境因子についての調査報告の2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

【授業計画】

○通信授業
・（教材による学習）博物館における資料保存の意義（文化財資料に求めるもの／保全をおびやかすリスクとは／臨床的保存の必要性／職業倫理／資料保存を支える専門家）、環境と資料の状態診断（資料の保存公開と環境の関係／環境をモニタリングして状態を評価する／資料の調査診断と記録）、環境と予防保存（環境を改善して資料を保全する／博物館資料を安全に輸送する／保存箱で安全な環境をつくる）、劣化と修理保存（修理を行う前に状態を調査する／対症修理と本格修理の役割／修理報告書を作成する／本格修理の事例）、教育と普及（保存活動の公開／保存教育）、環境保護と博物館の役割（低炭素社会との共存／自然災害への対応／環境と調和する資料保存）
・（学修報告と添削指導）博物館における資料の保存公開活動の事例研究／資料劣化につながる環境因子についての調査報告

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3 年次～

○履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備 考
（学1課程）
芸術文化学科各コース 3 ～ 4 年次選択科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース3～4年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

○教科書
神庭信幸著『博物館資料の臨床保存学』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

○学習指導書
『博物館資料保存論 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として扱われる。

科目名	博物館展示論						
授業コード	2250	授業科目名	博物館展示論			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

博物館における展示活動の起源と変遷、近年の動向を把握したうえで、展示を成り立たせる条件、展示の目的と形式との関係、展示を構成する諸要素、展示計画の進め方についての基礎的な知識を学修し、あわせて展示という行為に伴う課題や展示において求められる配慮に対する意識を養い、展覧会の企画趣旨と資料の特性や空間の条件、来場者の状態やニーズを勘案した展示計画の基本構想を立案し伝達する能力を獲得すること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1、2
教材による学習の後、実際の博物館展示から企画趣旨と展示構成との関係を観察・把握し評価・改善提案を行う事例研究、収集された身近な事物を資料と見立てた小規模展示を計画し、実施した結果を記録・文書化する 2 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

【授業計画】

○通信授業
・（教材による学習）博物館機能での展示の位置／展示の起源と展示学の成立／展示のインタラクティブ化・デジタル化／展示活動のプロセスと体制／展示に関する諸法令／館種等による展示の違い／展示を構成する諸要素／展示における解説活動／展示での資料劣化と管理／映像展示の特徴／展示におけるバリアフリー／展示の政治性・社会性／展示と知的財産権 等
・（学修報告と添削指導）展示の企画と構成との関係を把握し評価を行う事例研究／身近な事物を資料とした小規模展示の計画と実施

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3 年次～

○履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備 考
（学1課程）
芸術文化学科各コース 3 ～ 4 年次選択科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース 3 ～ 4 年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

○教科書
日本展示学会編『展示論 博物館の展示をつくる』（雄山閣 2010 年）

○学習指導書
『博物館展示論 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館教育論						
授業コード	2260	授業科目名	博物館教育論			担当者	三澤一実教授、金子伸二教授、川延安直講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

社会教育施設としての博物館の役割と博物館における教育的機能の種類や特徴を理解したうえで、実際の活動事例の把握を踏まえて、活動実践のための考え方や具体化に向けた手法、学校や地域社会など館外との連携のあり方などを、美術館における教育普及活動を中心的な題材として学び、博物館における教育活動への理解を深めるとともに、教育の担い手としての基本的な認識と活動計画のための基礎的な能力を獲得すること。

【課題の概要】

- 通信授業課題 1、2
- ・（教材による学習）博物館における教育／博物館教育の基礎理論／博物館での学習論／博物館の教育活動／さまざまな館・園の教育活動の特色／博物館教育プログラムの評価／社会教育施設としての博物館活動／博学連携の意義と課題／博物館教育をになう学芸員の役割

【授業計画】

- 通信授業
- ・（教材による学習）博物館における教育活動の背景／学校教育との関係／来館者とのかかわり／博物館の種類に応じた取り組み事例／博物館とまちづくり／体験型展示／ワークシートの位置づけと事例／ワークシート開発の流れと留意点／学校における鑑賞教育事業 等
 - ・（学修報告と添削指導）教育プログラムの目的と内容構成を考察する事例研究／教育プログラムの立案と実施のための関連ツール制作

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
3 年次～
- 履修条件
（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
- 備 考
（学1課程）
芸術文化学科各コース 3 ～ 4 年次選択科目。
芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース 3 ～ 4 年次選択必修科目。
学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

- 教科書
小笠原喜康ほか編『博物館教育論 新しい博物館教育を描きだす』（ぎょうせい 2012年）
- 学習指導書
『博物館教育論 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名		ミュゼオロジー II					
授業コード	1460	授業科目名	ミュゼオロジー II			担当者	金子伸二教授、杉浦幸子教授、足立圭准教授、嘉藤笑子講師、弘中智子講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T4)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科4年次【学1課程】文化支援コース必修【学2課程】選択必修）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「ミュゼオロジー」概念についての理解を踏まえ、博物館の経営（経営基盤、管理・運営、他機関・地域連携等）と資料（収集、整理保管、活用、調査研究等）に関する基礎的な知識を修得するとともに、美術館を中心とした国内外の博物館の具体的な諸事例を通じて、博物館における機能や事業との関連、今日の動向や課題について学修すること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1 ～ 4
教材による学習の後、資料収集の意義に関する事例調査、収蔵資料と企画展示との関係、博物館の個性化・多様化傾向の要因、文化行政の変化と博物館の役割を考察する 4 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

＊課題については学習指導書『ミュゼオロジー II 2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業
・（教材による学習）ミュージアムと経営（組織・人材／行財政／使命・評価／施設・設備／教育）、ミュージアムと資料（理念／収集／調査・研究／整理／活用） 等
・（学修報告と添削指導）資料収集の意義に関する事例調査／収蔵資料と企画展示との関係についての考察／博物館の個性化・多様化傾向の要因についての考察／文化行政の変化と博物館の役割についての考察

【成績評価の方法】

レポートによる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
（学1課程）
文化支援コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備 考
（学1課程）
芸術文化学科文化支援コース 4 年次必修科目。
芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の 3 年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。
（学2課程）
芸術文化学科芸術研究コース 4 年次選択必修科目。
芸術文化学科芸術研究コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の 3 年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

【教材等】

○教科書
金子伸二・杉浦幸子編『ミュゼオロジーの展開 経営論・資料論』（武蔵野美術大学出版局 2016 年）

○学習指導書

『ミュゼオロジー II 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

現場での体験を得るために、美術館・博物館などが募集するボランティア活動などに積極的に参加することが望ましい。インターネットなどを活用し、情報を収集する。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名		博物館実習					
授業コード	1470	授業科目名	博物館実習			担当者	新見隆教授、金子伸二教授、足立圭准教授、榎本寿紀講師、嘉藤笑子講師、山澤千春講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科4年次【学1課程】文化支援コース必修【学2課程】選択科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

博物館に関する科目において学習した内容を総合的に点検・整理する機会とするとともに、資料管理・展覧会の企画・運営・展示・普及に関わる各種業務を模擬的に体験することを通して、博物館活動や学芸員の職務に対する実際的な理解を深め、あわせてワークショップ活動やアウトリーチ活動など、美術館が施設以外の場へと展開している事業についてファシリテーターの立場でプログラム企画に取り組むことによって体験を積む。

【課題の概要】

○通信授業課題
展覧会企画案の作成を課し、添削指導を行う。

○面接授業課題
学内実習として大学美術館および民俗資料室の施設と業務内容を理解した上で、ワークショップ等教育普及活動の手法を体験するとともに、資料データベースの活用法を修得する。また館園実習として大学美術館および民俗資料室での所蔵資料調書作成、資料貸借業務と梱包作業等の訓練を踏まえ、展示室での資料展示の実習までを行う。

＊課題については学習指導書『博物館実習 2024 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

- 通信授業
- ・（学修報告と添削指導）学内実習（見学実習）該当 テーマ検討／展覧会の領域決定／対象館の所蔵資料調査／展覧会会場の空間条件考慮／対象館の基礎情報把握／所蔵資料の詳細調査／展覧会趣旨・目的の構想／展覧会の章立てと展示作品確定／展示作品のデータ整理／作家履歴の調査／企画書の作成／対象館の展示状況調査／会場配置と表示構成検討／関連事業立案 等
- 面接授業
- ・学内実習（事前指導）該当 オリエンテーション／実習の目標とテーマ／大学美術館の沿革と所蔵資料 等
 - ・学内実習（実務実習）該当 ワークショップの立案・実践に向けた演習／ワークショップの計画／アウトリーチ活動の現状／ワークショップ企画の発表と講評指導／今日の美術と社会をめぐる状況／実習全体についての質疑応答 等
 - ・館園実習該当 作品調書の作成／資料の梱包／資料借用の手続き／美術館の広報活動／展覧会の企画／展示作品の解説／展示方法の演習／保存科学と修復／展覧会企画の発表と講評指導 等
 - ・学内実習（事後指導）該当 文化遺産の保存／収蔵品管理の諸問題／美術館・学芸員に関するディスカッション 等

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業との総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4 年次

○履修条件
（学1課程）
文化支援コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。
（学2課程）
芸術研究コースの学芸員課程履修者で、「ミューゼオロジーⅠ」「メディア論」「生涯学習概論」すべての単位を修得していること。

○備考

(学1課程)

芸術文化学科文化支援コース 4 年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の 3 年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

(学2課程)

芸術文化学科芸術研究コース4年次選択科目。

芸術文化学科芸術研究コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の 3 年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

【教材等】

○教科書

なし

○学習指導書

『博物館実習 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

企画書作成の際は、課題の趣旨をよく理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

※ この授業科目の面接授業（スクーリング）を受講する以前に、本学が定める必修科目 8 単位を修得している場合のみ、本学における「学芸員資格取得証明書」の発行対象となる。

面接授業ではグループワークを予定。